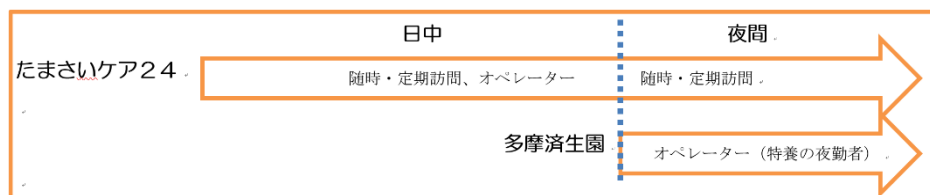


ポスターセッション	
報告テーマ	地域包括ケアシステム構築に向けた施設サービスと在宅サービスの連携
法人名・事業所名	社福) 多摩済生医療団多摩済生園・多摩済生ケアセンター
報告者	松尾 康平 (サービス提供責任者)、田中 伸一 (在宅介護室課長)

電話	042-343-2291	FAX	042-342-2900
事業所紹介	当施設は昭和52年に東京都小平市の緑豊かな敷地内に開設され、現在、利用定員多床室棟94名・ユニット棟60名・ショートステイ9床、同敷地内に多摩済生病院、デイサービス、訪問介護、訪問看護、居宅介護、地域包括支援センター、定期巡回随時対応型訪問介護看護等を併設しています。理念=添う心		

ご利用者のケアと職員のスキル向上を目指し、数年前から施設内で研修制度構築や委員会活動の推進・充実に力を入れてきましたが、特別養護老人ホーム多摩済生園（以下、「施設」という）内だけでの取り組みが多く、地域福祉の向上、地域貢献等への取り組みとしては、地域開行事の夏祭り等のイベントの開催などで留まっていました。その為、今年度の介護報酬改定の柱にもなっている「地域包括ケアシステム」の構築に向け、施設サービスと在宅サービスの連携に力を入れています。特に定期巡回・随時対応型訪問介護看護（以下、「たまさいケア24」という）と施設の連携です。

(連携体制)



- ・日中に施設職員が、たまさいケア24のサービス提供責任者の訪問介護に同行する機会を設けています。
- ・施設の主任会議にて、たまさいケア24のご利用者の状態や家屋などについて情報共有を行っています。
- ・施設の全職員参加の研修会で、サービス提供責任者が地域の実情等を説明する機会を設けています。
- ・夜間と日中のオペレーターが、スムーズに申し送りができるよう体制を整えています。
- ・たまさいケア24の運営推進会議に施設職員が出席しています。

(連携による成果)

- ・施設夜勤者がたまさいケア24のご利用者の状態を把握することで、様々なメリットが見られました。ある事例では、家屋状況が理解できている為、全盲のご利用者からのトイレ希望コールも電話で移動導線を説明することができ、自宅待機している定期・随時訪問介護職員が訪問することがなくなり、ご利用者の自立支援、訪問介護職員の負担軽減につながりました。
- ・研修会や情報の共有等を通じ、今まで関わりが無かった施設職員とサービス提供責任者の連携が図れるようになりました。
- ・在宅高齢者の生活を知る事で、ショート、緊急一時保護、措置入所等の受入れもスムーズになりました。

(最後に)

施設内だけでの取り組みはいずれ限界を迎えます。施設職員が地域の実情を把握し、在宅サービスと連携することで施設全体のケアが向上し、また、地域包括ケアシステム構築の糸口になっていくと考えるので、今後も本取り組みを継続して行きます。